

The Method Files

ベルゼブブ

君主と群れ

歴史・象徴・16の儀式実践

themethodfiles.com

日本語版
日本語組版：游ゴシック。巻末の書体名はスペイン語原版の記載です。

ベルゼブブ

君主と群れ

登録不要で読める、書籍全体からの抜粋です。原版の構成とページ番号を保ち、本文を日本語に訳しています。

序論、歴史を扱う一節、読解演習、一つの実践の全体、そして内容を位置づける参考資料を収めています。ページ番号が飛ぶのは抜粋のためであり、ページの欠落ではありません。

歴史

名前とエクロン

読解演習

似ていることは、生涯のつながりではない

現代の実践を全体で読む

君主への挨拶

本書の別の箇所への参照は、書籍全体を対象としています。この試し読みのページは原版の順序に従っています。PDF閲覧ソフトのしおりで各箇所へ移動できます。

君主に呼びかける前に

名前、歴史、実践の限界

ベルゼブブは、一つの伝統からだけ私たちに伝わった存在ではありません。その名前は、エクロンを舞台とする聖書の物語、今も決着していない言語学上の議論、福音書、ソロモンに関わる悪魔学、近世のキリスト教の分類、ヨーロッパの魔術書、現代のオカルトの諸潮流を通ってきました。それぞれの層は、この名前を異なる仕方で用いています。本書は、どの出典も証明できない連続した生涯を作り上げるのではなく、その違いを保ちます。

本書の実践は、この区別に基づいています。実践が歴史資料から考えを取り入れる場合は、どの部分が資料に確認でき、どの部分が現代に構成した儀式なのかを示します。ある資料は、名前、位階、出現の姿、召喚の文言の存在を記録していても、今日繰り返すのに適した儀礼を伝えているとは限りません。

その場合は資料を研究し、新しい儀式は現代のものであることを明示します。

16の実践は、ベルゼブブを信仰または象徴の観点から読むことに向けられています。必ず何かが現れると約束せず、主観的な体験を超自然的な事実の証拠に変えません。実践者は、自分の宗教的、哲学的、象徴的な立場に応じて、呼びかける存在を理解できます。共通の要件は別にあります。何を、なぜ行い、どう終えるかを知っていることです。

この実践集では、血液、動物の供犠、自傷、他者への危害を用いません。歴史的な魔術書の中には、そうした要素に依存する手順があります。本書では、それらをインク、ワイン、蝋、その他の考案した材料で置き換え、歴史的な儀礼がそのまま保たれているかのように装うことはしません。除外した要素に手順が依存する場合は、その存在を記録し、実践からは外します。

ベルゼブブを一つの呼び名に還元することもしません。「蠅の主」「君主」「悪魔たちの統率者」、ビンスフェルトの暴食、『グリモリウム・ヴェルム』の図形記号、『アブラメリン』の宮廷は、異なる文脈に属します。読者には、儀式の実践に入る前に、それらを見分けるための見取り図を示します。

角括弧の数字は、本書の参考文献を指します。スペイン語原版の儀式の定型文は、短い歴史的な引用と明示したものを除き、The Method Filesの独自の創作です。原版では、他の言語の抜粋のすぐ下にスペイン語訳を付しています。本日本語版では、その訳文も日本語に訳しています。

名前とエクロン

01・ベルゼブブ以前

バアル、zbl、出発点を遡りすぎる危険

名前の系譜は、しばしばウガリトから始められます。ウガリトの文献が、君主の称号として機能しうるzblを含む表現でバアルを呼ぶためです。この比較は文献学的に重要です。多くの研究者がBaal-zebulを「君主バアル」のような称号と結びつけた理由を理解する助けになります。しかし、言語上の関係があるからといって、ウガリトのバアルを、別の名を持つベルゼブブに変えることはできません。ウガリトの文献は、より古い宗教世界に属し、独自の神々、争い、称号を描いています。［2］

したがって、適切な出発点には二つの側面があります。一方では、ウガリトの資料から、zblが君主の称号の中でバアルと結びつきうることが分かります。

他方、本書で扱うベルゼブブが資料上に確認できるのは、『列王記下』第1章の物語にBaalzebubという形が現れてからです。この二つの情報の間にあるのは、可能性が論じられている関係であり、自動的に同一の生涯となるわけではありません。

この区別は、本書の以後の議論を支えます。あらゆるカナンの画像を遡ってベルゼブブの肖像にしたり、バアルの属性をすべて根拠なく現代の実践に取り入れたりすることを防ぎます。同時に、さらに興味深い点も見えてきます。ベルゼブブの名前は、翻訳、論争、再解釈を通して形づくられているのです。その変容を認めても、歴史の力は失われません。むしろ精度が増します。

02・エクロンの神Baalzebub

名前を直接確認できる最初の手がかり

『列王記下』第1章は、転落した後のアハズヤを描きます。王は回復するかどうかを知るため、エクロンの神Baalzebubに尋ねる使者を送ります。物語は、この問いかけに敵対的です。エリヤが使者たちを呼び止め、イスラエルの王がエクロンの神に答えを求めたことから、その問いは宗教的な非難へと変わります。［1］

本書の目的にとって、中心となる情報は限定的ですが確かです。Baalzebubは、病状の今後について尋ねることと結びついて登場します。

似ていることは、生涯のつながりではない

ある記録カードは、ウガリトのバアルの称号と『列王記下』のBaalzebubという名前を、同じ生涯の段階を描くもののようにまとめています。言語上の比較は適切かもしれませんが、生涯の連続性を述べるには、名前の類似だけでは得られない論拠が必要です。

カードを二つの資料に分けてください。それぞれの言語、文献、語の役割を書きます。次に、両者の間に提案されている関係だけを三行目に記してください。「関連づけられてきた」「提案されている」「本文は同一のものとしている」など、実際の確実さの程度に合う動詞を用います。

行を分けることで何が変わるか確認してください。伝承についての問いを、結論に変えずに残せます。別の読者が、各資料の記述と、両者を結ぶ仮説を区別でき、その関係を調べるためにどの参照先を見ればよいか分かれば、カードは完成です。

二つの資料と、それぞれの役割

提案された関係と必要な証拠

物語に残された問いかけ

ある要約は、アハズヤが水を入れた鉢を通してBaalzebubに尋ねたと述べています。聖書の章が記録するのは問いかけであり、鉢は本書の現代の実践に属します。その文は、歴史上の手がかりと現代の構成を混ぜています。

参考文献に示した『列王記下』の箇所を読み直してください。物語が言及する行動と、記述していない儀式の細部を、二つの一覧にします。後者を他の文化の画像で埋めてはいけません。情報がない場合は、この箇所には残されていないと言えますが、それだけで、かつて存在しなかった証明にはなりません。

実践02について、着想の出所と手順を分けた説明を書いてください。エクロンの祭祀を復元していると示唆せずに読めるものにします。この正確さによって、出典との関係を保ち、実践が現代のものであることを認められます。

語られた行動と、記されていない細部

出典を示した実践の説明

一つの実践の進め方

事前の見通し、手順、言葉、記録

事前に

送別を含め、実践全体を読んでください。用具を準備し、何を観察すると予想するか、別の可能性、見直す日を書きます。

開始時

指定された場面で、祈請を一度唱えます。実践06では、歴史的な句は手順01、原版のスペイン語による祈請は手順02です。

実施中

順番どおりに進めます。中心となる言葉は、指定された手順で読みます。実践11では連祷であり、手順02、03、04で、それぞれ完全な三行ずつを読みます。

終了時

送別を唱え、物を片づけ、記録を完成させます。中断する場合は、終了を宣言してください。終えたことにするために、手順を繰り返す必要はありません。

見直すとき

日付を付けた事前の見通しと、実際に起きたことを比較します。観察、解釈、独立した確認を区別してください。結果がなかった場合も記録します。

各実践には、手順と、その中心となる言葉、送別、取り組みの基準があります。開始前に両方の部分を読んでください。リンクから互いに移動できます。

君主への挨拶

現代の実践・01

願い、契約、しるしの要求を伴わずに、ベルゼブブの前で名乗る。

15〜20分

・BELCEBÚのカード、安定した明かり、水を入れた器、ノート。

準備

机の奥にベルゼブブの名前、横に明かり、手前に水を置きます。足を床につけて座ってください。なぜ始めることを選んだかを、短い一文に書きます。願いは用意しません。

事前・見通し

理由と、挨拶の間に観察することを書きます。注意、感覚、変化がないことなどです。いつ記録を読み返すかを決めます。

祈請・手順01の前

ベルゼブブ、君主、そして敵対者として伝わる名よ、自らの意思でこの時間を開きます。証拠を要求するためでも、持っていない確信を装うためでもありません。自分の名前、注意、明確な限界を携えて、ここに名乗ります。この儀式は今始まり、私の送別で終わります。

01・名を呼ぶ

カードを見て、自然な間を置きながら「ベルゼブブ」と三回唱えます。音を引き延ばしたり、秘密の発音を探したりしないでください。

02・名乗る

普段の名前または儀式の名前を言い、書いた一文を読みます。大仰な称号は避けてください。最初の挨拶では、自己紹介が正確である方が役立ちます。

03・水を差し出す

器を数センチ近づけます。「水と、注意を向ける時間を差し出します。答えを買うのでも、負債を負うのでもありません」と言います。器の両側に手を置きます。

04・称号を認める

「ある伝統では君主、別の伝統では統率者。今日は、あなたの歴史の違いを消さずに名を呼びます」と唱えます。2分間、静かに過ごしてください。

05・閉じる

中心となる言葉を読み、印象があれば一つだけ記し、送別を唱えます。水を片づけ、明かりを消します。

中心となる言葉と送別を読む →

実践01・言葉と送別

01・君主への挨拶

中心となる言葉：手順05。送別は終了時に唱えます。

ベルゼブブ、言語、位階、姿を変えてきた名前の重みを受け取ります。あなたに語りかけるために、そのすべての物語を一つにする必要はありません。限界を知ることで、私の言葉が十分なものとなりますように。注意が強くあっても、盲目的な服従に変わりませんように。この最初の臨席が、続ける権利も終える権利も保ちますように。

送別

ベルゼブブ、挨拶は唱えました。呼びかけを取り下げ、この時間を終えます。水は日常の用途に戻り、明かりは消え、決定は私のもとに残ります。

基準

この最初の実践には、蠅、図形記号、宮廷を用いません。意図的に外しています。図像を重ねる前に、名前との関係を築くためです。繰り返したい場合は、別の要素を加える前に、少なくとも三回は同じ簡素さを保ってください。

実践後

水は普通に捨てるか飲んでください。カードを保管します。終了後にしるしを探したり、蠅、音、偶然の一致を何でも確認の証拠と解釈したりしないでください。

記録

日付、実際の所要時間、挨拶の理由、沈黙中に起きたこと、繰り返したいかどうか。「観察したこと」と「解釈したこと」を分けます。

実行と見直し

実際の所要時間、行った手順、変更や省略、終了した時点を記します。予想と観察を比較し、結果がなかったことも残してください。

出典

「君主」という呼称は、新約聖書では「悪魔たちの君主」として、『グラン・グリモワール』では地獄の位階として記録されています。この儀式は現代の創作であり、歴史的な典礼を再現するものではありません。［3］［14］

← 手順に戻る

しるしを求めない挨拶

最初の挨拶で、ある人は並外れた変化を期待し、静かな実践を不完全と考えます。しかし、この実践が提案するのは、何かの出現を要求せずに名乗り、閉じることです。

始める前に、挨拶の理由と、起こりうる二つの結果を書いてください。説明できる印象と、変化がないことです。沈黙の間も、両方の可能性を保ちます。名前を見ているときに聞こえたというだけで、その場の音を確認の証拠に変えてはいけません。

その後、行ったことと観察したことを具体的な言葉で記録します。義務のように超自然的な説明を加えず、結果を期待と比較してください。最初の出会いの不足と考えたものを直すためではなく、自分にとっての価値から、また行いたいかを決めます。自己紹介に限界があり、送別を行えば、その日がまったく普通に続いたとしても、挨拶は完了しています。

理由と起こりうる結果

観察と継続の判断

参考文献・1

[1] USCCB. 『列王記下』1章。NABRE、デジタル版。1:2–6、16。1:2の注。

資料を参照する

[2] Christian Frevel. The Enigma of Baal-Zebub: A New Solution. Fabio Porzia、Corinne Bonnet編、Divine Names on the Spot II、OBO 299所収。ルーヴェン・パリ・ブリストル：Peeters、2023年。pp. 202–237、特に202–203、230–231。

資料を参照する

[3] USCCB. 『マタイによる福音書』12章。NABRE、デジタル版。12:22–30。

資料を参照する

[4] USCCB. 『マルコによる福音書』3章。NABRE、デジタル版。3:22–27。

資料を参照する

参考文献・4

[13] La Clavicola del Re Salomone、Joseph H. Petersonによるデジタル版。La Clavicola del Re Salomone, Tessoro delle Scienze Occulte. フィレンツェ、1880年。注つきデジタル転写。Caratteri di Beelzebuthと『ヴェルム』のイタリア語系統。

資料を参照する

[14] Le Grand Grimoire、Joseph H. Petersonによるデジタル版。Le Grand Grimoire. デジタル版。伝説上の年代と、物的資料による伝承を区別しています。位階とルキフゲ・ロフォカレとの対話。

資料を参照する

[15] S. L. MacGregor Mathers訳、Joseph H. Petersonによるデジタル版。The Book of the Sacred Magic of Abramelin the Mage. ロンドン：John M. Watkins、1898年。デジタル転写と注。第2巻、第19章。BELZEBUDの一覧と名前についての注。

資料を参照する

[16] J.-A.-S. Collin de Plancy. Dictionnaire infernal. 第6版。パリ：Henri Plon、1863年。Library of Congress所蔵本。pp. 89–90、Belzébuthの項目と画像2点。

資料を参照する

ベルゼブブ

君主と群れ

この先も読み進められます。

書籍全体は127ページで、読解演習と16の現代の儀式実践を、出典および参考資料とともに収めています。

実践を行わずに、歴史をたどる部分だけを読むこともできます。実践に取り組む場合は、現代に構成されたものと明示された内容を、準備、手順、終結とともに読むことができます。

PDF形式の電子書籍の日本語版です。個別指導やTMFの講座へのアクセスは含まれません。演習の解答はノートに書くか、PDF閲覧ソフトの注釈機能で記入します。

書籍全体を見る

日本語版：ｂｅｌｃｅｂｕ